

2019 国際平和のための 世界経済人会議 報告書

2019 World Business Conference for
World Peace in HIROSHIMA Archive



2019 国際平和のための世界経済人会議

会議概要

日時 2019年10月23日・24日

場所 広島国際会議場

テーマ ビジネスを通じて地球規模課題を解決し、国際平和を実現する
～平和とビジネスの交点としてのSDGs～

スペシャルセッション	成長指標と平和
セッション1	文化交流による平和構築
セッション2	情報空間の安全保障によるガバナンスの保持
セッション3	アジアにおける防災・緊急支援・国際保健による平和貢献
セッション4	グローバル・ビジネス戦略を通じた平和の実現
SDGsビジネスコンテスト	広島ピース・スタートアップ・アワード

基調講演

ティルマン・ラフ

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)共同創設者

テーマ 核兵器廃絶に不可欠な地球の健全性

- 核兵器の非人道性や核兵器使用による地球規模での環境への影響、核戦争が身近に迫っていることを指摘したい。
- 核兵器の近代化に向けた資金を持続的開発目標へ活用するなど平和構築のための投資が必要である。



講演

ジャック・アタリ

ポジティブ・プラネット会長

- 次世代に大きな影響を与える要因として、まずは1950年代から続く同盟関係の変化や兵器の小型化・無人化等による安全保障をめぐる大きな環境変化が挙げられる。
- 2つ目の要因として、気候変動が挙げられる。歴史が示すように、紛争と気候変動には相関関係があり、飲み水や食料の不足が戦争や暴力を生む要因となる。
- 3つ目の新しい要因として、これまでの制度で世界的な問題を解決することができなくなってきたことが挙げられる。これまでの制度では、将来の格差拡大、社会的移動の問題が解決されず、暴力行為を生む。
- ポジティブ・エコノミー・フォーラムの開催を広島で定着させたい。



会議の成果と今後に向けて

1 グローバル・ポジティブ・フォーラムとの連携関係の深化

昨年覚書を締結したグローバル・ポジティブ・フォーラムと合同で会議を開催したことにより、世界的な発信力や影響力の強化につながった。また、来年の合同開催に向け、さらに多様な人々が参加し、より充実した会議が開催できるよう準備を進めていくことで合意した。

2 SDGs達成への貢献

平和とビジネスの交点としてのSDGsをサブテーマとして、現代における平和の定義づけやSDGsと平和との関連性、持続可能な社会を作り次世代によりよい世界を提供するための新たな指標などについて議論し、目標16「平和と公正をすべての人に」を広島の解釈しなおすベースを形成することができた。

3 平和の実現に向けた賛同者の拡大

ビジネスに加えて、文化やスポーツ、防災や緊急支援など多様な分野を代表する方々と平和について議論し、それぞれの立場からの国際平和実現への継続的な貢献について賛同を得たことから、2020年を契機とした平和の実現に向けた様々な取組への賛同者の飛躍的な拡大への端緒となった。

4 次世代を担う若者からの発信

次世代を担う若者とともに、被爆100年となる2045年にあるべき世界の姿と今できる貢献について議論し、平和に関するプラットフォームの構築や平和の生産者を増やしていくことの重要性、そして来年度に向けた決意が述べられ、来年の開催に向けた、若者自身によるコミュニティ形成への起点となった。

5 SDGsビジネスの推進

「SDGsビジネスコンテスト」の開催や、「SDGsビジネスセレクトブック」の作成を通じて、県内企業へのSDGsの浸透を図るとともに、NPOや大学、企業などと連携したSDGsビジネス推進のための仕組づくりについて考える契機となった。

スペシャルセッション



成長指標と平和

利他的精神を基本に、持続可能な社会を作ることを目指す新たな経済指標「Positive Economy Index」を参考にしながら、現代社会における平和の基本的な条件とその指標化について議論した。

藤井 宏一郎

マカイル株式会社代表取締役
多摩大学ルール形成戦略研究所客員教授

ロベール・
ベルディエール

ポジティブ・プラネット・ジャパン代表

セッション1



文化交流による平和構築

様々な文化交流プログラムの平和貢献に関する有効性と課題の両面を議論するとともに、事業として相互理解や文化交流に取り組む企業の努力も紹介した。

福島 安紀子

青山学院大学地球社会共生学部教授

木村 真琴

株式会社サンリオCMOマーケティング本部長

山田 泰造

文化庁新文化芸術創造活動推進室長

柳澤 寿男

バルカン室内管弦楽団音楽監督

セッション2



情報空間の安全保障によるガバナンスの保持

国家ガバナンスとりわけ自由で民主的な社会の持続可能な存続のために、マスメディア、ネットメディアその他関連業界が成しうる連携について議論した。

古田 大輔

ジャーナリスト、株式会社メディアコロバ代表

梶浦 敏範

一般社団法人日本サイバーセキュリティ・イノベーション委員会代表理事

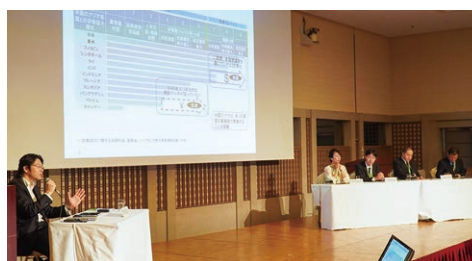
川口 貴久

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社上級主任研究員

高野 聖玄

株式会社スプラウト代表取締役社長

セッション3



アジアにおける 防災・緊急支援・国際保健による平和貢献

人道支援・災害救助活動や国際保健の分野での官民協力のあり方、防災・減災のための気象・海洋等自然データの収集機能を付加した都市インフラの輸出、国際保健における協力など、貢献の余地が大きい分野での日本のリーダーシップの在り方などについて議論した。

國分 俊史

多摩大学大学院教授、多摩大学ルール形成戦略研究所所長

柏倉 美保子

ビル&メリンダ・ゲイツ財団日本常駐代表

松井 隆

日立製作所ディフェンスビジネスユニット情報システム本部インテリジェンスシステム設計部主任技師

佐々木 康弘

日本電気株式会社PSネットワーク事業推進本部シニアエキスパート

竹谷 公男

独立行政法人国際協力機構(JICA)上席国際協力専門員、東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)客員教授

セッション4

グローバル・ビジネス戦略を通じた平和の実現



世界経済のブロック化が懸念される中で、オープンな経済による自由貿易とグローバリゼーションは、地域の安定や世界の平和にどのように貢献しうるのであるのか、ビジネス戦略を通じた国際平和の実現について議論した。

山越 厚志	前経団連米国事務所長・経済広報センター常務理事
今村 卓	丸紅株式会社執行役員・経済研究所所長
佐橋 亮	東京大学東洋文化研究所准教授
植村 憲嗣	三菱電機株式会社産業政策渉外業務役員



スペシャルトーク



- ✓ 広島は、平和を考えさせられる土地であり、相手の立場に立って物事を考える気持ちを大切にしたい。
- ✓ 平和の視点からは、違いを認め合い、尊重し合うことが大切。
日本では、違う意見が出た時に、相手を嫌いになることがあるが、違う意見を尊重し合えることが大切。
- ✓ フェンシング協会としては、SDGsをテーマにしたフォーラムの開催や賞金を男女平等にする等、性別、年齢、障害の有無を超えるための取組を行っている。また、環境課題についてもフェンシングからできること、折れたフェンシングの剣の廃材利用や電気自動車の活用等を行っている。



太田 雄貴	国際フェンシング連盟副会長、公益社団法人日本フェンシング協会会長
加治 慶光	鎌倉市参与

SDGsビジネスコンテスト

広島ピース・スタートアップ・アワード

企業によるSDGsビジネスの推進を活性化することを目的に、広島を基点としたSDGsビジネスの具体的な取組の創出を図るため、SDGsビジネスコンテスト「広島ピース・スタートアップ・アワード」を開催した。

結果

最優秀賞： 株式会社ラックス
奨励賞： アオイ化学工業株式会社、
株式会社エネルギー・コミュニケーションズ
尾道OMOTENASHI株式会社
一般社団法人とびしま柑橘倶楽部
一般社団法人福山グローバルパートナーシップ協会
株式会社マエダハウジング



●審査員長

金子 慎治

広島大学国際センター長、広島大学FE・SDGsネットワーク(NERPS)拠点長
広島大学大学院国際協力研究科副研究科長 教授

●審査員

藤井 宏一郎

マカイル株式会社代表取締役、多摩大学ルール形成戦略研究所客員教授

牛来 千鶴

株式会社ソアラサービス代表取締役社長

廿枝 幹雄

独立行政法人国際協力機構(JICA)民間連携事業部長

松原 裕樹

特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター専務理事・事務局長

ユースカンファレンス～若者から平和へのアプローチ～



未来を担う若者たちが、平和の実現に向けて、理想を現実にするための方策について自身の体験談を基に考え、議論し、提言書が知事に手交された。

藤井 宏一郎	マカイル株式会社代表取締役、多摩大学ルール形成戦略研究所客員教授
石原 郁也	広島ミライ会議代表
新谷 佑也	特定非営利活動法人The Peace Front共同代表
地代 善輝	広島修道大学4年
宮城 千里	広島大学4年
楠 康生	修道高等学校1年
廣田 彩咲	ノートルダム清心高等学校2年

広島ポジティブ・エコノミー・フォーラム

オープニング	ジャック・アタリ	ポジティブ・プラネット会長
	湯崎 英彦	広島県知事

イントロダクション	あらゆる外交が平和に資する可能性がある	
	基調講演 ノーベル外交:世界平和への超国家的貢献	

ジョゼフ・ラロシュ	パリ第一パンテオン・ソルボンヌ大学教授
-----------	---------------------

ACT1 戦争は根絶可能か?～紛争の様々な側面に照らして～

戦争は不可避なのだろうか。あるいは、人間は戦争をなくすることができるだろうか。何が戦争をなくすための最良の方法だろうか、教育か、国際対話か、社会的な平等か。私達はどのようなポジティブ・エコノミーの選択をすれば、将来の紛争を防げるのだろうかについて議論した。

インナ・シェフチェンコ	フェミニスト活動家
ジーン=ジャック・クルリヤンツキー	仏国際関係戦略研究所リサーチ・フェロー
田口 晶子	国際労働機関(ILO)駐日代表
ジャン=クリストフ・パス	Dialogue of Civilizations Institute代表
ロベール・ベルディエール	ポジティブ・プラネット・ジャパン代表
ジャック・アタリ	ポジティブ・プラネット会長
ジャン・ブランチュール	風刺画家



ACT2 国際協力

国際協力には、組織的なもの、民間レベルのもの、人道的なもの等々ある。国際協力は常に平和への手段である。気候変動であれ、核兵器であれ、どんな戦略的な対話も今日、国際協力なしには考えられない。どうすれば国家やリーダーが国際協力を推進することを支援できるのだろうかについて議論した。

ミシェル・サバン	R20-気候アクションの地域代表
ティルマン・ラフ	核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)共同創設者
小倉 桂子	被爆体験証言者
ジャック・アタリ	ポジティブ・プラネット会長



モデレーター	セドリック・パチェラー	Nomadeis共同創設者
--------	-------------	---------------

これまでの開催状況

2016 国際平和のための世界経済人会議 (2016年10月)

会議概要

- コトラ教授を迎えた、世界初の平和をマーケティングする会議
- 国内外のトップレベルの経営者、研究者、社会起業家、国際NGOが集結。WEF若手リーダーも参加するなど、約300名が参加
- マーケティングによる平和構築の可能性について討論

フィリップ・コトラ教授の3つの提言

平和のためには、これらを通したピースメイキングが必要

1. 核兵器をはじめとする兵器の削減
2. 憎しみの連鎖を減らす
3. 愛を高める



基調講演者 フィリップ・コトラ教授

共同 コミュニケ

持続的な平和の対話の場の構築に向けての声明

1. 「国際平和のための世界経済人会議」を今後とも継続的に開催すること
2. 広島を拠点とした平和対話のためのトラック2（企業・NGO/NPO）コミュニティを以下の方法により創設・維持すること
 - (1) トラック2コミュニティの維持活性化のための事務局と財団の創設
 - (2) 「平和のためのマーケティング」研究所の創設
 - (3) 国際平和拠点としての広島の情報発信の強化
3. 広島における平和のための研究機能を強化・集積すること

セッション1	非人道兵器廃絶のためのキャンペーン
セッション2	平和キャンペーンのためのコミュニケーション・デザイン
セッション3	平和に貢献する非営利部門のマーケティング
セッション4	平和に貢献するソフトパワー・ビジネス

セッション5	世界経済フォーラムのYGLとの対話
セッション6	平和貢献による新たな企画価値の創出(BOP・CSV)
セッション7	世界平和拠点としての広島

2018 国際平和のための世界経済人会議 (2018年11月)

(1) グローバル・ポジティブ・フォーラムとの覚書締結

核兵器のない平和な国際社会実現に貢献するため、ジャック・アタリ氏が会長を務めるグローバル・ポジティブ・フォーラムと覚書を締結した。

【目的】両者の相互協力により、平和な国際社会の実現のために、より充実した貢献を可能にすること。

【合意内容】広島において、「ポジティブ・エコノミー・フォーラム」と「国際平和のための世界経済人会議」との2019年以降の合同開催に向けて協力する。

(2) 国際平和を促すコミュニティとプラットフォームの形成に向けて

ジャック・アタリ氏から、平和とポジティブ行動をつなげて、広島から発信していく重要性や平和のインフラを経済、文化、教育などから作っていくことが必要との提言を受けた。登壇者から、平和に向けたコミュニティづくりに取り組むとのことのお話いただき、今後の平和のコミュニティ、平和のプラットフォーム構築の契機となったと考えている。

(3) CSR、BOPを含んだSDGsビジネスの推進について

「SDGsビジネスコンテスト」の開催や、県内企業のSDGs取組事例集の作成を通じて、NPOや大学、企業などと連携したSDGsビジネス推進のための仕組みのベースを形作ることができた。

(4) NPO・NGO、政府とビジネス部門との連携について

各セッションを通して、連携の在り方について提言を受けた。

スタートアッププログラム SDGs、BOP、CSRビジネスの創出を通じた平和の実現

セッション1	気候変動による平和のリスクと環境イノベーション
セッション2	デジタル化する世界に潜む不安定さから平和を守るために
セッション3	新しい時代の教育を通じた平和構築
セッション4	アートによる社会への働きかけを通じた平和の実現
セッション5	平和実現に向けたスポーツの持つ可能性
セッション6	利他が生み出す新たな資本主義と平和への道すじ





2019
World Business Conference for
World Peace in HIROSHIMA Archive